

鹿児島大学病院広報誌

だより

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会

28号
2013.1

《目次》

【診療科・部門紹介】

- ▶▶ 血液膠原病内科
- ▶▶ リハビリテーション科

- 冬場に流行する感染症にご注意ください。
- 錦江湾魚ごよみ
- **病院再開発** 新病棟のコンクリート打設工事

理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療を心がけます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

患者さんの権利と責務

〈患者さんの権利〉

1. 良質な医療を公平に受ける権利
2. 人としての尊厳を尊重される権利
3. プライバシーや個人情報保護される権利
4. 自分の状態や診療内容について説明と情報提供を受ける権利
5. 自分の意思で医療を選択する権利

〈患者さんの責務〉

1. 自分の健康状態についてできる限り正確な情報を提供する責務
2. 当院の規則を守り、迷惑行為を慎む責務
3. 診療費を速やかに支払う責務

大きく進歩した白血病治療の現在

血液膠原病内科

血液疾患で有名な病気は、何を思い浮かべるでしょうか？ やはり、ドラマなどで頻繁に取り上げられる疾患として、急性白血病ではないでしょうか。急性白血病といえば、不治の病であり、若い患者様が余命半年と宣告され、壮絶な抗がん剤治療の末、最終的に亡くられるというイメージがあるかと思います。また、骨髄移植をしなければ、治らない病気で、骨髄提供者がいるかいないかが生死の分かれ道になるというイメージもあるのではないのでしょうか。

しかし、現在の白血病の治療は、大きく様変わりしています。慢性白血病に関しては、内服のみで病気のコントロール可能です。急性白血病の治療では、特に副作用の対策は、以前とは比べようもない程進歩しております。例えば、制吐剤の発達により抗がん剤を投与中も十分に食事を取ることが、できるようになっています。脱毛も、現在はウィッグを使用され、外見上もわからないことがほとんどです。また、治療中は、感染症にならないように、一時期無菌室に入室しますが、そこでは、食事は加熱食で、多少制限を受けますが、テレビを見たり、パソコンを自由に楽しんだりすることもできるようになっています。また、家族、親族、友達とも時間の制限はつきませんが、コミュニケーションをとることも十分可能です。今まで我々の病棟は、無菌室が、1床しかなく、患者様には大変ご迷惑をお掛けしていましたが、今年2月に無菌室の2床目を、増床して頂きました。そこは、現在骨髄移植での治療を中心に有効活用されております。

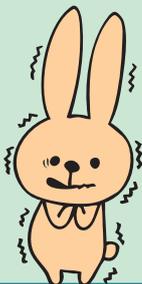
また、骨髄提供者に関しましても、兄弟で白血球の型が一致しなければ、骨髄提供者を日本骨髄移植推進財団より迅速に紹介して頂いております。他の手段としましては、日本臍帯血バンクネットワークより臍帯血を提供して頂いております。これらを有効に活用すれば、ほぼ100%骨髄提供者を確保することができます。現在、日本骨髄移植推進財団が成立して、20年経過しましたが、急性白血病患者を、強力に治療する事のできる環境が整い、もはや不治の病では無くなってきています。今後も、できるだけ最新の治療を取り入れ一人でも多くの急性白血病の患者様の笑顔が取り戻せるように、日々努力してまいりたいと考えております。



冬場に流行する感染症にご注意ください。



感染管理認定看護師 折田美千代



感染予防に関わる仕事をしている看護師です。手洗いの指導や病棟訪問による感染対策の確認など、感染症を起こさないように、予防行動に努めています。また、医師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員など、多職種で病院全体の感染対策活動を行っています。

今回は、冬場に流行する感染症の対策について、ご紹介します。

感染性胃腸炎(ノロウイルス含む)の対策

10個位の少ない量でも発症する**感染力の強いウイルス**です。

ウイルスは乾燥した環境でも3~4週間生存でき、感染すると便に1~4週間ウイルスを排出する場合があります。拡がりやすい特徴があります。ノロウイルスに汚染された食品の摂取や、ウイルスとの接触、汚物から空気中に漂ったウイルスの吸入により感染します。

特に嘔吐物、下痢物に多量のウイルスが排出されますので、処理する場合注意が必要です。窓は開けて、触れないように**手袋**(できればエプロン)を、また飛沫を吸いこまないために**マスク**を着けて取り除き、**塩素系消毒薬**で消毒して下さい。そして、十分に**石鹸と流水**で**手洗い**を行う事が重要です。

インフルエンザの対策

咳、鼻汁、咽頭痛、関節痛、発熱、倦怠感などの症状がありますが、高熱が出ない場合があります。キット検査で陰性でも、症状がある場合はインフルエンザの可能性が0ではありませんので、ご注意ください。

インフルエンザの方との無用な接触は避けた方が感染は防げます。看病をする人も、**マスク、手洗いを徹底**して下さい。

また、インフルエンザに有効な抗ウイルス薬があり2日位で熱が下がる場合がありますが、ウイルスはまだ体にいますので、**熱が下がっても薬は飲みきって**、マスクをつけ他の人に拡げない事も重要です。



効果的な手洗い方法を紹介します。

12ポイントをしっかりと洗いましょう。

1 手の平をこすり合わせる



2 両手の指の間をこすり合わせる



3 4 手の甲をもう片方の手の平でこする(両手)



5 指先をもう片方の手の平でこする



6 7 8 爪部分を洗う
左右をかえて5、6をくり返す



9 10 親指をもう片方の手の平でこする(両手)



11 12 手首を丁寧にこする(両手)



鹿児島大学病院「おはら祭」に35回目の参加

鹿児島の秋を彩る市内最大のイベント、第61回「おはら祭」が11月2日、3日の両日にわたって盛大に開催され、鹿児島大学病院も市民との交流を図る絶好の機会に踊り連を結成し、2日の前夜祭に参加しました。

踊り連の参加も今回で35回目となり、教職員で構成された総勢約250名の踊り連は、揃いの法被、浴衣姿で「おはら節」、「はんや節」のリズムにのって「エンヤサー」「ヨイヤサー」と元気な掛け声を響かせて踊り、沿道の観衆から盛んな拍手を浴びた。



総勢約250名の鹿児島大学病院の踊り連



先頭で踊る病院長(右下)

イルミネーション点灯

鹿児島大学病院では今年で5回目となるイルミネーション点灯式が、12月3日夕方、病院医科診療棟1階玄関前で入院患者さんや病院長などの関係者が出席して行われました。

病院長、小児科入院中の子どもさんにより、スイッチが押されると、美しいブルーとホワイトの電球約6,000球が使われたイルミネーションが一齐に点灯し、出席者から大きな拍手と歓声が上がりました。

このイルミネーションは、財団法人親和会より患者さんに「潤い」、「癒し」を感じてもらえるように提供されたもので、1月初旬まで点灯され入院患者さんや来訪者の方々の目を楽しませてくれます。



ウミウシの産卵

新年を迎える頃、錦江湾の水温はぐんと下がります。体が濡れないドライスーツを着ても、寒さはじわりじわりとスーツの中に忍び込み、体温を奪います。それでも歯を食いしばって海に潜るのは、冬には冬の海ならではの魅力があるからです。

鮮やかな色彩を身にまとったウミウシたちとの出会いもその一つです。どこから現れるのか、毎年この頃になると海底に姿を見せ始めます。とはいえ、その大きさは数cm足らず。海底を這うように泳いで目を凝らし、この砂糖菓子のように美しい生き物を探し求めます。

ある日、桜島南岸の溶岩の斜面を降りていくと、純白の体に黄色い点を散りばめた大きく美しいキイボキヌハダウミウシに出会いました。ふつうは3cm程しかないウミウシですが、この個体は10cm近くもあります。体をCの字型に曲げてじっとしています。何かが起こりそうな気配に、私は、その場で待つことにしました。

やがて、ウミウシはゆっくりと円を描くように動き始めました。脇腹から黄色いものを出しています。それは卵塊で中には小さな卵の粒がたくさん入っています。彼女は、ゆっくりゆっくり回り、卵塊で海底に渦巻き模様を描いていきます。

私は寒さも忘れて、その神秘的な行動を見つめていました。凍つく暗い冬の海底で、ゆっくりと静かな時間が流れていきました。



産卵中のキイボキヌハダウミウシ。
ゼリー状の卵塊の中には小さな卵が見える。

TOPICS

病院 再開発

現在の建物は築後30年以上が経過しているため、病院内施設の充実、患者さんの療養環境改善を目的に、平成19年度から建物の増築・改修を行っています。ご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願いします。

新病棟のコンクリート打設工事

鉄骨の組立作業も終わり、次の工程であるコンクリートの打設工事が始まっています。1階から上層階へと徐々にコンクリートで覆われ、11月末の時点では3階の床面まで達しています。コンクリート打設工事が終わるのは来年の3月頃の様です。



新病棟3階の様子(11月末)

広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気について的一般知識など知りたいことがありましたら、お知らせください。

また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。

鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより〈28号〉

2013(平成25)年1月発行

発行／鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】

<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>